



高知の
酒蔵19軒の、
宣伝マンの
つもりです。

「お客様が100人いたら100通りの好みがある。甘いのが好きか辛いのがいいか。お土産なら差し上げる方の好みをお聞きます」野町浩一郎は、高知の酒蔵すべての銘柄をそろえて、高知の酒に特化して販売している。

福岡の大学から就職は広島へ。17年前に室戸に戻り、酒店を継ぐ。

開店から閉店まで、夫婦は自宅に帰っても24時間一緒が多い。

「主人は“いごっそう”で、中途半端が嫌い。納得いくまでとことん追求するので時間がかかるけれど、お客様を大事に思っています」

山側育ちで生魚が食べられなかった妻は、室戸ですっかり魚好きに変身。「朝、海がキラキラしている景色を見て贅沢だなあと」

働き者の妻は、ネット対応と接客で夫を強力にバックアップする。

夫は「今日カツオのたたきに合わせたい」とか「前回選んでもらったのがおいしかったから」とお客様の要望にびたっと応えてリピートしてもらおうのが至上の喜び。「何がおすすめですか?」と聞かれると、「何がお好みですか?」と聞き返し、一人ひとりに合うものを提案する。

帰省し県外に帰る時に必ず寄ってくれる人も多い。

「ふたりで旅して、おいしいお酒や食事を堪能したい」という夢の実現は、もう少し先になりそう。室戸で有能な酒の宣伝マンに出会って、高知の酒のファンがもっともっと増える日まで。

野町酒店
野町浩一郎・晶子

室戸
じと、
進む。